

福岡市東区奈多海岸における離岸流について

七海洋情報部
平成28年7月27日

【流された状況】

7/2 14時頃から、女子高生4名が沖に向かって泳ぎ出したところ、潮の流れによりさらに沖に流され出したので、危険を感じ砂浜に戻ろうとしたが、全く岸に向かって泳げなかった。そのうち1人がラッコ泳ぎ（背浮き）しようと声を掛け合いながら岸に向かって泳いだところ、3名は何とか海岸に戻ることができた。

ただし、1名は一生懸命泳ぐも、3名とは声が離れていき海岸から沖合約30m程度のところで取り残されていた。

その後、付近にいた別のレジャー客3名により事故者は確保され、病院へ搬送し、救助された。

【離岸流の分析】

現場確認及び事情聴取によると、

『気象海象』：西北西の風（沖から吹く風）、波も同様、干潮付近の時間帯

『現場状況』：事故付近のみ白波はなく、両側は白波あり

『事故証言』：「潮の流れによりさらに沖に流され出した」

「全く岸に向かって泳げなかった」

上記のことから、離岸流の発現があったと推察される。

【注意喚起：離岸流が発生しやすい状況】

- ① 海岸が外洋に面し、遠浅で海岸線も長い海岸
- ② 風向・波向とも海岸線にほぼ直角に入る状況
- ③ 白波が途切れている、海岸の地形がへこんでいるところ
- ④ 干潮付近の時間帯
- ⑤ 人工構造物付近
- ⑥ 海岸のごみが溜まっているところ など

上記が離岸流の発生しやすい条件ですが、海岸付近ではいつでもどこでも離岸流が発生する可能性があるため注意する必要があります。

【事故後の対応】

事故付近の海岸を管理している福岡県土整備事務所、福岡市農林水産局に事案概要をお知らせするとともに、福岡保安部HPに事案概要を速報し、注意喚起した。